



今年で90歳になられた糸井在住の黒田清子さん。太子町ができた時ちょうど二十歳でした。美容師として60年あまり仕事を続けてこられました。現役は退かれましたが、キャリアウーマンの先駆者として、当時の苦労話や思い出をお聞きました。

**Q: いつ頃から美容師になろうと思われましたか。**

A: 小さい頃から髪を三つ編みにするのが好きだったので、美容師になりたいという思いは15歳ごろからありました。父も美容師になれと薦めてくれたので、女学校を卒業して美容学校へ行っただけです。その後、他の店で修業しました。

**Q: 自分の店を持たれましたが、「若草」という美容室の名前はどこからつけられたのですか。**

A: 網干でお世話になった岡本先生が、映画若草物語が好きだったので、そこから「若草」とつけてくださいました。洒落た名前が気に入っています。

**Q: 当時のパーマは今と違うんですね。どんな感じてましたか。**

A: 今はコールドパーマといって薬ですが、当時は電気マシーンで、熱かったんです。よく縮んでいるほうがよかったので、ゆるかったら、もう一回あててと言われました。1時間くらいかかったかな。

**Q: 結婚し、出産されてからどんな苦労がありましたか。**

A: 3人とも家でお産しました。出産後、2〜3日してすぐ店に出て、特にお正月は大変でした。12月31日の夜中まで仕事、元旦は午前6時までということもあったね。お乳が足りない時には、近所

から山羊の乳をもらって飲ませたこともありました。

**Q: 長くやっていく中で大変なことはありましたか。**

A: しょっちゅう講習はあったよ。流行の髪型やパーマの当て方など、変わっていくから勉強しないと。

**Q: 60年あまり続けられて思うことは?**

A: よくやったな。これも親が子ども達をみてくれたから。病気で仕事を休んだことはなかったし、元気だったからこまめでやれたと思うね。



今なお若々しく、凛とした立ち振る舞いに憧れます。身だしなみは、いつも美しくと美容師の先生に教えられていたそうです。いくつになっても女性として若さを保ち、すばらしい生き方をされています。おしゃべりが好きなのは、きっと美容師として、お客さまと色々な話をされていたからでしょうね。



▲ 独立した頃の黒田さん

## 太子ことばを探せ! ⑤

文 瀧北りえ  
太子町男女共同参画推進委員

### まんまんちゃ



太子に移り住んで20年。播州弁もそろそろベテランの域に達してきたと思われる私ですが、今でも本当の意味はわからなくて「それ本当はなんですか?」という言葉があります。

娘がやっと立ったり座ったりできるようになった頃、あるとき義母が仏壇の前に娘を座らせ、「まんまんちゃ、しよか〜」と言って娘の隣で手を合わせて、それから「まんまんちゃ」と頭を下げるのです。

「??? あのう…、『まんまんちゃ』ってなんですか?」 とたずねる私。

「えっ? まんまんちゃはまんまんちゃやで? 意味ってなんなんやろ? 」と、義弟に聞く義母。

「まんまんちゃ言わんのかいのう? 東京では。まんまんちゃは、こないな小さい子に仏壇に向かう時に言う言葉なんやなあ。意味言われてもなあ」と、困られてしまいました。

それから実に7人の孫達が入れ替わり立ち代わり実家にくるたびに、「まんまんちゃしよか〜」と手を合わせる儀式はかかされず、いつの間にか私の中では『まんまんちゃとは、拝むこと』ということになっていました。

しかし、最近になって職場で本当に久しぶりに『まんまんちゃ』という言葉聞き、ここは一つちゃんと調べてみようと思いい立ちました。

さて、Weblio(インターネット辞書)によると…

**「まんまん」とはお経の「なんまいだ」つまり「南無阿彌陀仏」のこと。転じて仏様の意。「あん」はあな尊しに由来し手を合わせて拝む意。**

なるほど、なるほど。太子生まれの編集室メンバー一人に聞くと「まんまんちゃ、あん」が正式との声も。「まんまんちゃ、あん」が編集室メンバーわが実家では更に略さ

れていたのでしょう。地域によっては食事の前に手を合わせてこんな風に言うこともあるそうです。

『まんまんちゃん、あんしんしたらたべてもええで。あんしてき』

とても和みますね。こんなに愛らしい方言がなくなってしまうのは、なんだかとても勿体ない。孫が出来たら使ってみようと思っちゃいました。

太子ことばの中には、聞くだけで怖い言葉もあります。「なにしよんどいやっ」「ごうわく」「しばくぞ」とか言われたら、正直泣きそうになります。でもこんな言葉は、今や子ども達の世代でもあまり使われていませんね。

どの地域の方言もどんどん標準語化してしまい、そのうち関西のどこに住んでも、聞こえて来るのは標準語になるのでしょうか。それもなんだかさみしいような気がします。

「太子ことばを探せ」を担当したおかげで、こんなことを考える時間を持てた私。「たのしいたいし」と町制70周年特別号と一緒に作った仲間たちに感謝いたします。まんまんちゃ。

## 太子町の「紫」を探せ!

太子町の色は、やっぱり「紫」でしょ! ということで、ただただ町内の紫を探し歩きました。意外とむずかしかったです〜!



公園も、紫!?

本の表紙も紫!

お花シリーズ!

赤紫系!?

体育館で発見!

これはもちろん紫!

おじいちゃんのペン立ても紫!

あとがき 「」まで読んでくださりありがとうございました。

・お聞きした多くの話の全てを掲載することができませんでした。お詫び申し上げます。多くの方に出逢えたこと、多くのお話を聞けたことは私の宝物です。(岡本 功)

・町制70周年の紙面づくりに参加して、母がお世話になり、私も結婚式の着付けをしていただいた若草さんに恩返しができ、感謝しかありません。(黒田紀子)

・70周年記念号では、親子三世代で母校石海小学校の思い出を振りかえる機会をいただき、改めて母校に親しみを感じました。太子に生まれてよかった〜。(小林知子)

・丑年に牛とのエピソードをたくさん聞くことができ、楽しかったです。【紫の70】を見つけられなかったことだけが心残りです。情報お待ちしています。(重末素子)

・今号の取材を通じ、太子町民の70年前の暮らしがわかり太子町になると同時に、ますます太子が好きになりました。関わって頂いた皆さんありがとうございました。(瀧北りえ)

・「なんにもないけどここがすき」と言いながら、前回に引き続きたくさんネタがある太子町。今回は記事を書けませんでした。引き続き面白そうな事があるかな?と探してみます。(土井美紀)

・新メンバーが加わり熱量アップ。今回も読みごたえのある文章量ですが、そのぶん新たな「たのしいたいし」の一面を発見いただけると幸いです。関わってくださる全ての皆さまに感謝です!(長谷川香里)

・今回、多くの方々にインタビューや写真撮影をお願いしたところ、皆さん快く協力くださいました。本当にありがとうございました。人が優しく暖かくなっている、太子町って本当にいい町です。(松浦つづ子)

この冊子を通じて、一人でも多くの町民に「たのしいたいし」が届きますように!

スマホのカメラをむけるとアドレス入力をしなくてもメールが書けます▼



## 町制50周年記念品の温湿度計を探してみた。

今回、取材の中で発見された町制50周年記念の温湿度計。これが各家庭で20年経ったいまでも大活躍していることが判明! きっとこれを読んでいる、あなたのお宅にも… さらに、町制40周年記念の朱肉も発見!(さすがにカピカピ) みんな大事に持っていました。次の記念品は何がいいでしょうか? 温湿度計のように、知らず知らず長く持てるものもいいですね。

